



陽気は幸せの種

陽気だより

図書出版 養徳社
〒632-0016
天理市川原城町388
TEL 0743 (62) 4503
FAX 0743 (63) 8077

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No67

2012.10.15

第7号(24年12月号)から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で63年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

土と信仰に生きる「ふるさと村」

— 現地座談会 —

まえがき

奈良市から東北に三里、梅で名高い月ヶ瀬へ行く県道を、一日に一往復しかしてないバスにゆられて、一時間ほど山路をたどると、県道の片隅にポツンと立てられた六角の木の道標に気づく人もあろう。——生琉里村(ふるさと村)と雨にさらされてはいるが、墨の色も濃く筆太に書かれた四字が目にとまる。

この道標からさらに南へ半丁—村民が丹精こめて切拓いたという—巾広い道路を辿ると小高い丘にある村の中心—教会に出る。

—奈良県添上郡東里村の西南、四方を山



生琉里分教会(『改訂天理教事典』より)

に囲まれた僻地—ここに昭和九年満州ハルビン郊外(旧浜江省阿城県天理村)に入植して以来、約十年、

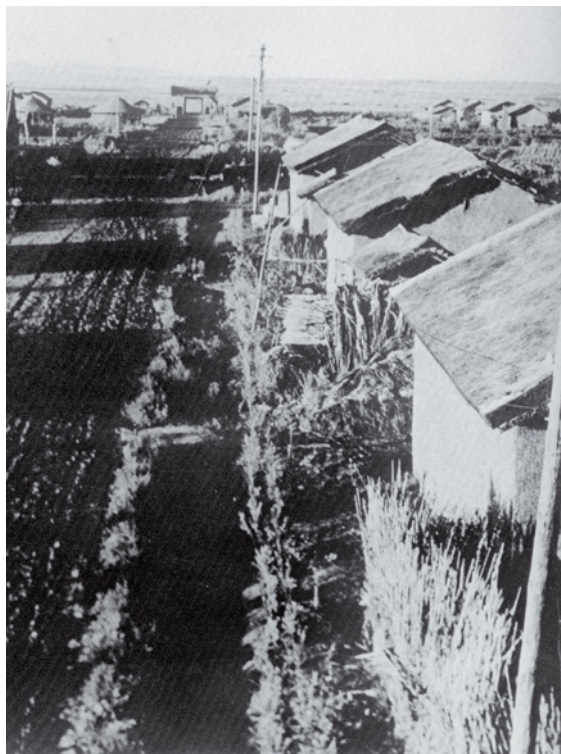
千振、弥栄とともに満洲開拓団として輝かしく成果をあげ、終戦後

祖国に引揚げた後、内地に第二の人生をきずくため再出発した生琉里村がある。

昭和二十一年十月、抑留の不安と窮乏と焦慮の一年を現地に送ったのち、やっとなつかしの祖国の山河をふんだ開拓団員の感慨はいい知れぬものがあつた。あ

郊外と同一志郡八知村に、それぞれ分村を建設、二十三年一月より入植をはじめた。

昭和二十二年といえは戦後のインフレが最高潮にたつた時である。日々に騰る物価と、不足がちの資材に悩みながら、不屈の闘志で土と信仰に生きるこの人達は陽気ぐらしの中に土を拓き、文化農村の建設に邁進した。



当時の満州天理村(中国東北部)西門より東門を望む(『実録満州天理村』道友社刊より)

雨が一度降れば、折角植えつけた作物は流れて去る瘦地に種を蒔き、大地の上に板で土台を作り、周囲の山で採ったそだ(粗朶)をたばねて僅かに風を防ぎ、天井はかやぶきで雨露をしのぐという粗末な小屋で暮し、電燈もなく、一日のつかれを癒すものとしては野天風呂の外にないという原始人のような明けくれの中からでも、村民達が第一番に建てたのは教会であつた。(後略)

るものはなつかしの我が家に、故郷に、親戚に帰っていった。だが徒らに過去の夢を追うだけでなく、内地に第二の生琉里村をうちたてようという悲願のもとに立ちあがった六四戸、三六四名の人々がいた。

天理教本部の温かい援助の下に、この人達はこの東山村を本村に、三重県上野記事はその後、ふるさと村の十数名が、旧満州での開拓の様子、終戦、引き揚げ時の壮絶な様子などを語っている。

地獄極楽

坊さんと田舎ものらしい老母との対話。
坊さん「生きている間は天理さんの世話になりや、死んで六道の辻で迷っていたら、私が救うてやるさかいな」
老母「結構だす。罪をつくっておいで付けてくれというのは、古い信仰だす。生きてる内に因縁切りまんねん」

坊さん「極楽や地獄はどこにあるか知ってるか」
老母「極楽はどんなことでも喜んでる人の心が極楽でんね。達者な人は極楽だす」

坊さん「地獄は監獄のようかな」
老母「あらまあ、監獄は地獄だつか。私や、地獄というのは病人でねている人、腹を切ったり自分の身上を手術している人が、地獄にいる人や、と思っっていますのやがな……」

みちのとも 昭和八・九・二〇

芽吹くまで

神様は、

「人に施しをしたことを自慢するのはちよほど蒔いた種子たねを掘り返しするような

ものやで」

と仰せ下さっている。蒔いた種子から芽を出させ、花を咲かせ、実をむすばせようとするのには、どうしても種子を蒔いたあとで、土をかぶせて、その種子をつつんでおかねばならない。

われわれは時としてまことにうるわしい種子を蒔くこともあるのだが、直ぐそれを掘り返してしまつて、他人に見せたがるのである。じつと土に包んでおくことが出来ないのである。

だから、いくらよい種子を蒔いても、少しも、芽がふき出て来ない。折角蒔いた種子が乾干かっかんになったり、鳥の食べ物になつてしまふ。

そのくせ悪い種子を蒔いた時は、なかなか用心をして他人に分からぬよう知れぬようと、土をかぶせたりわらかぶせたりするのである。だから、悪い種子はきつと悪い芽を生やし、悪い花を咲かせて悪い実を結ぶのである。かくすほど、現れるというが、まことに面白い事実だと思ふ。



道はつづく

〔「真実の道」道友社刊より〕

定期購読中

お道の家庭雑誌

陽気

◎定期購読の誌代は1冊で半年分…1,600円(送料共) 1年分…3,200円(送料共)

ゆうちょ銀行の青い振込用紙をご利用下さい。
(口座番号 00990-3-17694 加入者 養徳社)
希望の号を指定の上、お客様の住所、氏名、電話番号をはっきりご記入お願いします。

〒632-0016 奈良県天理市川原城町 388 養徳社



中臺 勤治著

絶賛発売中!!

人間がたすかる原理

- この本には本当にたすかる元があり、一つの道筋が見えてくる。(53歳・布教所長)
- おたすけの虎の巻としていつも持ち歩いてます。(45歳・教会長)
- 基本教理の関連が見事に解き明かされている。(75歳・前会長)
- 教祖百三十年祭の前に実にいい本が出ました。(65歳・会長夫人)
- 入院中の会長さんにおちば土産に持って行ったら、すごく喜ばれました。(53歳・ようぼく)

定価 1,365円(税込) 送料 200円

※ご注文は前払いとなりますので定価に送料を加算して郵便振替にてご注文下さい。
(口座番号 00990-3-17694 加入者名 養徳社 通信欄に書名をお書き下さい)

2冊以上のご注文は送料が異なりますので、業務部までお問い合わせ下さい。

〒632-0016 天理市川原城町 388 図書出版養徳社 業務部窓口 ☎0120-920-398

養徳社 よもやま話

○月○日 社屋人口付近に真っ赤な陽気定期購読申込所の案内看板がある。制作当初は綺麗な赤地に白抜き看板だったが、ほとんど何が書いてあるかわからないほど、褪色が進んでいた。今夏、僅かな時間を縫って、風雨に耐えたと聞いた水性塗料で修復を行った。タテ180センチ、ヨコ90センチの看板を数名で手分けし塗装をした。今回はどのくらいの期間に耐えるか楽しみだ。

○月○日 定例の編集部と業務部の合同会議開始前、某氏「過去の会議の記録を読んではおもしろいな。あんな事やこんな事言っていたんやつてわかるわ」、進行役曰く「そうです。発言は一言一句すべて記録されますから、冗談抜きでお願いします」の一言で某氏は苦笑い。横道に逸れることなく会議は進んだ。

○月○日 健康保健師から、生活指導を受けている某氏。昼休憩時、健康対策の一環でラジオ体操を行っていた。ラジオ体操を行うたびに大粒の汗が流れるため真夏の間休んでいた。「涼しくなってきたから、また復活するわ」と二カ月ぶりのラジオ体操復活を宣言した。

○月○日 予兆もなくパソコンが壊れた。古いパソコンを蔵出して、無事業務を開始できた。